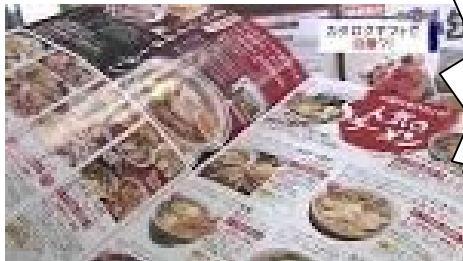


ノルマがあるから自爆営業は無くない、年賀葉書は郵便局でしか売っていない、コンプライアンス違反は許されない。



TBS テレビ NEWS 2 3



毎日放送「VOICE」

カタログ販売

「年賀はがきの発売日、すぐに金券ショップで売る」「郵便局の一番のお得意さまは、郵便局員」「(非正規社員からは)生活できる賃金を出さないで、人を雇うのは本当におかしい」さらに、「正社員と同じ仕事で年収は三分の一、安定したい」

「ブラック企業大賞2013」の授賞式での一幕

東京8月11日

日本郵便は低賃金の非正規労働者が60%!



外
郵政産業ユニオン
号 さつぽろ

2013年11月

郵政産業ユニオン札幌支部
発行責任者 岩倉 政義

自爆する日本郵便の社員たち

1月1日は年賀葉書の発売開始日。それは全国の郵便事業会社(日本郵便)の社員の多くが「自爆営業」を開始する日でもある。正社員で約1万枚、非正規社員で約5000枚の販売ノルマ。これを達成しなければ、昇給、昇進、継続雇用が脅かされる。その前近代的な経営方針が多くの社員を金券ショップへと駆け込みさせるのである。

昨年3月27日のテレビニュース「NEWS23クロス」(HBC=TBS系全国ネット)は郵政の「自爆営業」を取り上げた。

冒頭、大阪の郵便配達員は自分で自分に送ったバレンタインチョコを手に「自分に対する高い義理チョコ・自爆です」と話した。番組は1月に「年賀葉書の自爆」を報道したが、それは「自爆営業の深い闇の入口に過ぎなかった」。YouTubeサイトで「自爆営業」を検索すると「郵政残酷物語:」自爆営業、年賀葉書売却の次は、「元郵便局長証言・こうして自爆営業は生まれる」・・・こんな項目がトップにアップされている。いまや世間では「自爆営業」は郵政の代名詞となっている。

まやかしの「赤字論」をふりまき、今年も「年賀販売」が始まった。従来の「年賀販売方法」は「不適正営業」だったとして、撲滅を図る施策を全局に指示したが、一方で前年を上回る目標を設定、報労費を用意している。これでは会社が「ノルマではない」「ペナルティはない」と言っても現場では人事評価・スキル評価の項目である。社員は正規・非正規を問わず、自爆をせざるを得ないのが実体である。

会社統合で「今まで変わらぬサービスをお届けする」としたが、自爆営業も「今までと変わらぬ」のなら会社に未来はない。

ノルマ増やして自爆防止???

会社は「26年用年賀販売の新たな取り組み」として、「不適正営業の防止」を掲げましたが、さらにアップした「過度の目標」があるかぎり何の効果もありません。郵政の「自爆営業」について組合はアンケート結果も含め再三再四是正をもとめてきました。テレビ・新聞等マスコミにも度々取り上げられ、「ブラック企業大賞」の場でも話題になっています。

子供でもわかる無意味さ

会社は今回、ネット販売・立て替え払いの禁止・金券シヨップ対策等の防止策をきめました。しかし、ネット販売で立て替え払いがなくなるとは思えず、これまで立て替え払いを認めていたことこそ会社の「コンプラ違反」です。年賀の箱に押印と言いますが、箱から出せば何の意味のないのは子供でもわかります。

自爆をまねく過度の目標

一番の防止策は「過度の目標」をなくすことです。だれが好んで「自爆」するでしょう。「業務態様に見合わない過度の目標」が課されるゆえにコンプラ違反がおこるのです。

根源は会社・管理者にあり

「別紙3を読み上げる」としていますが、事例項目は会社・管理者に読み聞かせてこそ効果があります。過度の目標を課すのも、評価の不利益をほめかすのも、見せしめ指導をするのも全て会社・管理者です。コンプラ違反の根源は会社の方針と管理者の態度を改めないと永久になくなりません。